



になった。

その頃、麓には頬に大きな瘤があり顔の醜い男がいた。この男は梨をあのままにしておくのはもったいないと「俺が採りに行く」と言い出した。「俺が行けば鬼どもは俺を見てびっくりして、鬼のほうに逃げ出すだろう」と男は梨げいりを目指して登って行った。男は、顔は醜いが心は優しく、声が良く唄が上手い。それに踊りは天下一品大変上手であった。

鬼出しまで登って一休みした。もう、鬼さん出るはずと様子をうかがったが出てこない。少し様子がおかしいと耳を澄ましていると、岩陰の方から何やらがやがやするのでおっかなびっくり近づくと、驚いたことに洞穴の中で鬼どもは酒盛りをして、唄ったり踊ったりしている。男は、つい、つられて踊りながら穴の中へ入って行った。これを見た鬼どもは、あまり上手なので驚きもっと踊れ、もっと唄えと囃し立て一緒になって踊り、唄った。何刻かたって男は鬼の親分に帰ると告げ、「実は梨げいりの梨を採りに来た」のだと話した。鬼の親分は「お易いことだ。今朝、採ったばかりの梨があるので持っていけ」と籠にいっぱい梨を入れてくれた。ご馳走になったり、土産をもらったりしたので、お礼を言って帰ろうとしたところ、必ずまた来るようにと親分が言った。「その証にお前の顔の大事な瘤を置いていけ」と、瘤を取ってしまった。

醜い男は、顔がすっかり綺麗になり、梨の土産はもらい、足が地につかぬほど喜んで麓に帰ってきた。それから、麓の人達は梨で若返るのでその土地を「梨げいり」と云うようになった。それでこの沢を「瘤取り沢」、その後に訛って「瘤とち沢」と呼んでいる。